

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成13年度に商業高校から総合高校に改編し、昨年度、扇町総合高等学校として、最後の入学生を迎えた。総合学科として6つ（令和2年度入学生からは4つ）の系列と多くの選択科目を設定しており、生徒のニーズに応じた多様で柔軟な教育活動を行っている。主体的に学習に取り組むことで個性を伸ばし、将来社会に貢献できる教養と技能を備える人材の育成をめざしている。

1 系列の特色活かした学習

大阪文化・環境科学・マーケティングデザイン・会計ビジネスの各系列の特色を生かし、進路選択と結びつけた確かな学力を育成すると共に、今後も時代の変化やニーズに応じた学習形態や内容を実施する。

2 キャリア教育の推進

外部講師による実業教育講話、校外体験学習などを通して進路選択に繋げていく試みが功を奏し、生徒の多様な進路選択への対応が成果として表れている。現在、大学・短大・専門学校への進学者が毎年80%を超えていることを踏まえ、進学に向けた進路指導体制をさらに充実させ、教職員の専門性を生かしながら学習活動の大きな柱として引き続き取り組む。

3 確かな基礎学力の定着

生徒がそれぞれの進路希望をかなえ自己実現を図るためには、確かな基礎学力を定着させることと並んで、興味・関心を広げる発展的内容について探究し、深く理解する学びが不可欠である。家庭学習の習慣を定着させ、生徒の自学自習を促す段階的かつ継続的取組を行う。

4 「21世紀型スキル」の習得

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、思考力・判断力・表現力を育成することが柱の一つとなっており、本校においても、生徒が身に付けるべき所謂「21世紀型スキル」を育成するための授業展開を行っていく。

5 生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくり

積極的な情報発信は欠かせない。学校ホームページや体験入学の充実など様々な手法を駆使しながらPR活動に努める。また、地域と連携を深め、教育的・社会的資源としても貢献できる学校づくりをすすめていく。

2 中期的目標

1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

(1) 総合学科の系列の特色を活かした学習目標を明確にした教育実践を展開する。

(2) 各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。

(3) 「扇総生に身に付けてほしい力」として、①挑戦力、②探究力、③対話力、④発信力、⑤想像力、⑥自他肯定力、⑦キャリアプランニング力を設定しすべての教育活動を通じて、それぞれの力の育成を総合的に行う。

(4) 学校図書館の利用促進を図ると共に、生徒が主体的に読書活動を行い、発信するなどの機会を増やす。また、学習できる環境づくりを実施する。

2 自己肯定感の育成とキャリア教育の推進

(1) 進路保障のための組織的な補習体制を構築し、主体的な学習習慣の定着を進め、進学実績へと繋げる。また、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。令和6年度には大学・短大・専門学校の進学率（実績値）を85%にすることをめざす。（R1 71.5%、R2 78.1%、R3 83%）

(2) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。

(3) 生命や人権を大切にす精神を養うとともに、自他を尊重しながら、より良い学校生活を構築するために、協力して部活動や生徒会活動等に取り組む態度を育成する。

3 安全で安心できる学校の実現と社会の多様性を認識し、「人・社会」と繋がる力の育成

(1) 生徒の健康観を高め、社会の一員として公衆衛生の意義を理解し、校内外の美化や安全に向けて積極的に行動する態度を養う。

(2) 地域との交流を深め、積極的な情報発信により中学校・保護者への広報活動を一層強化する。

(3) 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図り、月80時間を上回る教員を0名にする。（令和3年1月現在延べ6名）

4 ICTの活用と整備

(1) 次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導法などの教育内容の開発を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R3年度値〕	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	(1) 系列としての独自性を確立し、系列行事を充実させるとともに、進路目標に応じた学力の獲得を支援する。	ア、授業で扱う学習内容の精選と補習体制の相乗効果で、大学など専門教育につながる資格・検定取得率の向上を図る。	各教科において資格・検定合格率を向上させる。〔R3：危険物取扱者乙種4類 40%、全商簿記2級 96%、STEP英検準2級 31%〕 総合学科に関するアンケート「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あったか」に対し「当てはまる」の回答を85%以上にする。〔R3 82%〕 「7つの力に関するアンケート」「挑戦力が身についた」の回答を90%以上にする。〔R3 87%〕	
		イ、定期考査前には土曜自習室として会議室を開放し、常に進路を意識した学習ができる環境を確保する。	年5回の土曜自習室を行う。〔R3 5回〕	
		ウ、教員と生徒、および生徒同士で双方向での意見交換や体験型学習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に発表を行えるような知識を習得できる授業を実践する。	系列の特色や教科の専門性を生かし、生徒が企画・運営する機会を年1回以上設ける。また、校外で年1回以上発表する。〔R3企画・運営 各系列1回、校外発表 各系列0回〕	
		エ、各系列の特色をしたフィールドワーク等を実施するなど、系列独自の様々な取り組みを行うとともに、課題等を発見し、発信する力を養う。	系列におけるイベント等を年1回以上実施する。〔R3 大阪文化2回、環境科学1回、マーケティングデザイン2回、会計ビジネス1回〕	
		オ、進路指導部や各学年とも連携して課題を提示し、自宅学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。また、補習等を通して大学入試にも対応できる学力の向上をめざす。	学年別に外部模試を受検する機会を年2回以上設ける。〔R3 1年0回、2年1回、3年5回〕	
(2) 各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。	ア、本校生に必要な知識及び態度を再度確認し、それを授業で実現していくための教育内容を検討する。	教科主任会を年3回以上開催する。〔R3 3回〕		
	イ、教材を精選、工夫することにより、学習に取り組む意識を引き出し、基礎学力の定着を図る。また、教科によっては、習熟度別にクラスを編成し、基礎学力の向上をめざし、発展的内容に自ら挑戦する意欲を身につけさせる。	月1回程度の課題や確認テストを実施する。〔R3 月1回〕 総合学科に関するアンケート「総合学科の取り組みで、自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」に対し「当てはまる」の回答を85%以上にする。〔R3 84%〕		
(3) 統合に伴う作業を円滑に行い、蔵書の精選・管理と生徒および教職員が利用しやすい図書館運営を推進する。 図書委員会の活動を活発にし、生徒の責任感、主体性、発信力等を育成する。	ア、図書委員会活動をさらに活性化させ、カウンター業務や図書館整備など図書館の利用促進についても、生徒が主体的にアイデアを出して取り組めるようにする。 図書委員が中心となって読書会を企画し実施する。	各クラスの図書委員に図書当番を割り当て、読書会を年2回以上実施する。〔R3誌上ビブリオバトル 1回、読書会 0回〕		
育2 自己肯定感の育成とキャリア教育	(1) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。	ア、朝の校門指導等、学校生活全般を通して、あいさつ、言葉遣い、身だしなみの大切さを意識させる。また、規範意識を理解させ、より安心安全で平和な学校づくりをめざす。 体育祭、文化祭等を通して、生徒一人ひとりが主体的に行動する機会を増やし、生徒会活動をさらに活性化させる。 また、社会に貢献できる人材として成長させるために、自らの意見をしっかりと伝える発信力の育成をめざす。	遅刻者数（教務遅刻者数）について前年度を下回るようにする。〔R2 延べ496名、R3 延べ410名〕 生徒会執行部を中心として、行事の企画・運営を行えるような機会を年3回以上実施する。〔R3 3回〕 「7つの力に関するアンケート」「キャリアプランニング力が身についた」の回答を80%以上にする。〔R3 76%〕	

	<p>(2) 自己理解を深めることで進路意識を高め、より主体的な進路決定ができるよう支援する。 また、早期より進路実現をめざした学習が行えるよう、支援する。 さらに、卒業後の進路を見据えた上で「生徒に身につけさせたい能力」を身につけられるような指導を考える。</p>	<p>イ、生徒の進路希望に対応した説明会や講義、講演会を行う。1年次には大学等への見学会、2年次には分野別模擬授業を、3年次には校外において大規模な進路説明会を実施する。</p> <p>ウ、各学年に対応した外部模試や講習会を数多く開催し、生徒の進路実現のサポートを行う。特に面接指導や小論文指導などでは本校教員だけでなく外部講師を招いた指導も行う。</p> <p>エ、保護者を対象とした進路説明会などを実施し、生徒だけでなく保護者に対しても進路意識の向上を促す。特に保護者に対しては、奨学金制度の説明を含めた学費の問題に力を入れる。</p>	<p>3年間で3回の分野別説明会を行う。〔R3 3 5回〕</p> <p>1・2年次では年1回以上の実力テストを実施する。〔R3 1年3回、2年2回〕 2、3年次で合計2回の小論文添削指導を行う。〔R3 2年3回、3年1回〕 3年次には面接試験を受験する生徒に対し、2回以上の個別指導を行い、学力検査を受検する生徒には2回以上の模擬試験を受験するよう指導する。〔R3 平均5回〕</p> <p>2年次、3年次にそれぞれ1回、保護者対象進路説明会を行い、生徒の進路意識の向上に対し協力を促す。〔R3 2年1回、3年0回〕</p>	
3 安全で安心できる学校の実現と社会の多様性を認識し、「人・社会」と繋がる力の育成	<p>(1) 安全で安心できる学校の実現と、「よりよい社会」を作ることに貢献する人材の育成をめざし、その基盤となる生活習慣と態度を身に付けさせる。</p>	<p>ア、清掃活動や、環境委員の清掃場所巡視の活動、呼びかけにより、環境を守る意識の醸成を高める。</p>	<p>環境委員会としての清掃場所巡視を月に2回行う。〔R3 月2回〕</p>	
		<p>イ、生徒が主体となる活動を通じて健康に関する意識を高め、安全、安心できる学校になるようなリーダーの育成を行う。</p>	<p>学校保健委員会を年1回開催する。〔R3 1回〕</p>	
		<p>ウ、各系列に応じて時事問題や視聴覚教材を取り入れることで、さまざまな視点で事象を捉える力を養う。</p>	<p>外部団体が実施する作文等などについて年1回以上応募する。〔R3 1回〕</p>	
		<p>エ、部活動を中心に、地域の各種イベント等へ積極的な参加を行い貢献することで、さらに「地域に根つき、密着した学校」として認知されることをめざす。また、北区で唯一の公立高校として北区役所との連携を深め、北区はもとより大阪市全体に貢献できるよう、ボランティア清掃活動などの諸活動も推進する。</p>	<p>地域の依頼に応え、積極的に参加する。 すべての部活動の中から年間8回以上の活動を行う。</p>	
	<p>(2) 生命や人権を大切に する精神を養うとともに、 自他を尊重しながら、より 良い学校生活を構築する。</p>	<p>ア、いじめを許さない学校づくりをめざす。いじめについて考える日を設定し、講話などを行う。また、いじめアンケートなどを通して生徒の実態を把握し、適宜いじめ防止委員会を開催する。</p> <p>イ、講演会などを通じて、生徒がさまざまな人権問題について感じ、考える機会を設ける。他の分掌とも連携し、より効果的な行事の在り方をめざす。また、教職員向け人権研修の企画に協力し、情報収集と外部調整を行う。</p> <p>ウ、校外の人権研修会に参加するなど、さまざまな人権に関する新しい情報を収集し、委員会で共有・活用する。</p>	<p>いじめアンケートを年3回実施する。〔R3 3回〕 「7つの力に関するアンケート」「自他肯定力が身についた」の回答を80%以上に する。〔R3 78%〕</p> <p>生徒向けおよび教員向けの人権講演会を年1回実施する。〔R3 1年1回、2年1回、3年1回〕</p> <p>校外研修に1回以上参加し、校内の人権教育委員会を年間2回以上開催する。〔R3 研修3回、委員会1回〕</p>	
<p>(3) ノー残業ダイの徹底</p>	<p>ア、時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を行う。</p>	<p>月80時間を上回る教員を0名にする。 〔R3 延べ6名〕</p>		
と4 整備 ICT の 活用	<p>(1) ICT機器の整備を行うとともに、次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導を推進するとともに、生徒のプレゼンテーション能力の育</p>	<p>ア、自分の考えや主張を表現するための語彙力や表現力をつける。またICT機器を活用し、校内外で積極的にそれらを発信する機会を設ける。</p>	<p>近畿地区総合学科研究大会、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究発表大会等の校外での大会で発表を行う。 「7つの力に関するアンケート」「発信力が身についた」の回答を75%以上に する。〔R3 70%〕</p>	

成をする。	<p>イ、ICT教材を積極的に活用し、暗記偏重にならないように体験を通して自ら思考する学習を促す。</p> <p>さらに、ICT機器を活用し、生徒同士が適切に表現したり伝えあったりすることができる、対話力や発信力の向上につなげる。</p>	<p>グループワークなど生徒による協同学習を実施する。また、プレゼンテーションやディベートを行う。</p> <p>「7つの力に関するアンケート」「探究力が身についた」の回答を80%以上にする。[R3 79%]</p> <p>また、「対話力が身についた」の回答を90%以上にする。[R3 87%]</p>	
	ウ、既存のICT機器の改善を図り、生徒の学習環境の整備を充実する。	ICT機器・視聴覚機器の改善を行うための検討を年3回以上実施する。[新規]	